

ジャパン・フェスティバル

各部門責任者の声

入場者管理担当責任者 永嶋実



久しぶりに入場者管理の担当責任者を任せられました。今年はボランティアの皆さんに恵まれて、大きな問題もなく無事に担当部署の仕事を遂行することができました。ランチをローテーションどおりに取ってもらうことができたのも、一人のキャンセルもなく全員が参加してくれたからだと感謝しています。2007年からのボランティア説明会の開催が、ボランティアのJFに対してのモチベーションをあげていると思います。開場前に人員配置とそれぞれの役割を説明して、全員に3ヶ所の異なった仕事をしてもらえたので、みんな良い体験ができたのではと思っています。

舞台プログラム担当責任者 坂本敏範



今年も、プロ、アマチュア、多くの出演者たちの熱い演技でステージは盛り上がりました。中でも人気を集めたのが、忍者サーカス。彼らの舞台が始まる頃、会場は超満員となり、コメディ、アクロバットありの躍動的な舞台に多くの観客が釘付けにされました。

今年の演技者への謝礼金は、\$50 から\$100 へと一歩前進しました。しかし、忍者サーカスなど、30分の演技をするのにどれだけの練習時間と場所の使用料がかかったのでしょうか。毎年JFでは、\$10,000 近くの利益が上がると言われます。そろそろ他のFestival 同様に、パフォーマーにもその演技に見合った金額を出せるよう、来年は是非議論をして頂きたいと思います。

タウンホール会場誘導案内係担当責任者
ウイルソン泉



毎年ジャパンフェスティバルで一番心配なのはボランティアが集まるだろうか、当日雨が降りませんように、無事終わりますようにの3つです。今年はTown Hall 会場誘導案内係の担当責任者としてお手伝いしましたが、最近、ベビーカーでいらっしや

る来場者が増えたなと感じます。Town Hall 自体は私たちが手がけるのにはちょうどいいサイズですが、ベビーカー来場者が増えて来ている傾向はちょっと興味深い

です。また新しい課題が追加されました。年に1度のフェスティバル、工夫はありますが、骨格そのものは変わらないので同じようですが、来場者の皆さんを見ているうちに、私が小さい時、縁日が楽しみだったあの頃の気持ちをちょっと思い出しました。気が付かないかもしれないけれど、来場者の皆さんもそんな気持ちをきっと持っているような気がします。

カラオケ教室担当責任者 パイク文恵



JCVの初めての企画を任されてから3ヶ月間は試行錯誤で進め、その間、色々な意見があり二転三転しながらやっと当日を迎えることが出来ました。ボランティア7名で参加

者の方が少ない中スタートしました。NHKニュースの「日本のお正月時期は餅での窒息事故が多発しますが、喉の筋肉運動で解消できます。手っ取り早いのは歌うこと」との説明をしたところ「フ〜ン！」と頷く人の顔、顔、顔。まずは『瀬戸の花嫁』レッスン、カラオケ。午後は『ブルーライト・ヨコハマ』レッスン、最後のカラオケと続きましたがオーストラリア人、アジア人が多く、歌詞カードに振り仮名を書いて上げて練習をする人、人、人。やはり熟年者はカラオケの無い時代のせい参加者は少々。ほとんどはカラオケに慣れている若者。オーギーも、アジア人も楽しく、日本の歌を歌って参加賞、賞品を受け取り、盛り上がりながら「あなた方は何者？」と思われるほどのAudio Setなどプロ並の設備で大盛況に終了しました。

TAFE 入場者案内担当責任者 牧本直子

私は現在メルボルン在住約一年になります。Japan Festival にボランティアとして参加させて頂いたのは二回目で、今年はフードコート・TAFEの入場者案内の責任者を任せられました。責任者という大きな役割で私に



務まるか不安でしたが、JCVの皆様の方々に親切にご指導頂き無事終える事が出来ました。私は現在学生なので、最近大きな責任のある仕事をしていませんでした。しかし今回、リーダーという立場をさせて頂いたお陰でボランティアの方の配置や休憩のローテーションを考えたりと日本で

仕事していた頃を思い出し、私自身とてもよい経験となりました。支えて頂いた皆様に心から感謝します。そしてお疲れ様でした。

折り紙教室担当責任者 ウォラー加代子



今年の折り紙ワークショップは9名のボランティアで行いました。3種類の簡単な折り紙を用意して

が、「小さい頃から折り紙が大好きでした。」という中国人のボランティアさんが折り紙の本を持ってきてくれたので、他にもいろいろ作ってみました。小さな子供たちには「ひよこ」や「魚」、少し大きな子供たちには「手裏剣」や「ピョンピョンはねるカエル」、大人の方には「鶴」が人気でした。ボランティアの清水さんの素晴らしい折り紙作品にはたくさんの方が目を見張っていました。折り紙は初めてというボランティアさんもいましたが、人出の少ない午前中に一生懸命練習してくれて午後にはすっかり折り紙先生になっていました。休憩時間も予定通り取れないほど大忙しでしたが、とても楽しい折り紙ワークショップでした。

タウンホールインフォメーション担当責任者 吉浦亮子

インフォメーションデスクには、本当に色々な細かい質問をしてくる方々がいて戸惑うことも。。。でも、インフォメーションデスクには絶えず「お



手伝いしましょうか」と掛け合う言葉、そして笑顔がありました。

ようこさんとみゆきさんという素晴らしいボランティアのお2人、そしてVIP担当をされた山村さんと小西さんにも色々とお助けいただきました。お陰で完璧ではなかったかもしれませんが、気持ちよく

楽しく1日を過ごせたと思います。ありがとうございました。

衛生管理担当責任者 矢部勝義

今年のJFは前日まで長雨に祟られ、当日も晴れ間がのぞくことなく終始しました。前庭の「日本の伝統遊びの広場」では、竹馬が水を吸った土に足を取られ、例年以上に難易度が高くなりました。そのような悪条件にも関わらず、例年並の来場者が訪れ、JFが



しっかりと根付いていることを印象づけました。フードコートとなったTAFE駐車場は、今年も身動きできないほどの人ばかりでした。裏方としては、今年のボランティアの質の良さは特筆すべきでしょう。何をなすべきかを考え、率先して行動した人が、どの部署にも多かったように思います。着物・浴衣・コスプレ・はっぴ・黄色いベストに囲まれて、会場全体が日本一色となった一日でした。

児童生徒絵画コンテスト担当責任者 久保田満里子

児童生徒絵画コンテストの応募の締め切りは5月1日。それなのに4月の第二週目迄に応募されたのはたった15点。慌てて学校に手紙を書いたり、締切日を2日延ばしたりと、ハラハラの連続でし



たが、実行委員の皆さんのご協力もあり、最終的には300点集まり、ほっと一息。今年には総領事代理小竹康史氏や美術関係の専門家計5名の方に審査員になっていただき、当選作を決めて頂きました。JFの後入選作は7月

15日まで総領事館の広報センターに展示されていますから、まだ見ていない方は是非ご覧ください。とっても可愛い作品ばかりで、心がほのぼのとさせられますよ。

最優秀作品「ポケモン」



カラオケショップ



ヨーヨー



写真提供：永嶋実氏、平田大季氏、新ヶ江英子氏